

科目名	発達心理学特論Ⅱ			ナンバリング	858084	授業形態	講義
対象学年	1	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	林洋一	担当教員					

授業の概要	心理臨床の実践的活動に生涯発達心理学的な知見を生かすという視点から、主として青年期以降の心身の発達とそれに関連する要因について検討する。講義ではあるが、講義形式のみではなく、映像資料を基にした討論、受講者による文献の紹介と討論、指定した研究テーマに関する討論等を行う。						
到達目標	1. 臨床心理学の実践的活動に、生涯発達心理学的視点を取り入れて考察することができる。 2. 青年期・成人期・老年期の主要な発達課題について理解し、その意義と実践的活動への応用を考えることができる。 3. 発達という現象は、常に社会の中で生起する。現在の日本社会が抱える様々な課題に対して、心理臨床家としてどのように向き合うかについて、自分なりに考えることができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	心理臨床の実践的活動は、常に、「発達」と「個人差」を考慮しながら進める必要がある。また、個人の持つ独自の価値観や社会文化的要因にも配慮することが大切である。この授業では、研究論文の講読だけではなく、歴史・社会・文化に関する映像資料を基に、人間の「発達」について考えることが求められる。						
ディプロマポリシーとの 関連	【人文学研究科 臨床心理専攻(修士課程)のディプロマポリシー】						
	○	1. 人間におけるさまざまな物事や問題を、臨床心理学の方法論を用いて探求し研究できる。					
	○	2. 臨床心理学の知識を深めるとともに、心理学全般にわたる幅広い教養を持ち、臨床的な枠組みを用いて、実践的に研究することができる。					
		3. 心理臨床の場面に対応しうるコミュニケーション能力を持ち、状況に応じたふさわしい自己表現ができる。					
	○	4. 自ら問いを立て、それに答えていく研究能力を持ち、積極的に活動できる。					
		5. 各自の研究成果を、修士学位論文にまとめ上げることができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
生涯発達の視点から人間の発達について考察し、意見を述べることができる。また、社会の持つ価値観や時代的背景について注目し、対象者の年代や個人差に即した心理臨床的アプローチを進めることができる。	乳幼児期から老年期に至るまでの発達段階の一般的特徴を理解すると同時に、年代差・個人差に配慮しながら心理臨床活動を行うための知識・技術を獲得している。また、要支援者に対する社会の見方がどのように変化してきたか、また、現時点で解決すべき問題は何かについての的確に把握し、自分の意見を整理して述べることができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○	○	○		30%
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○		30%
授業態度・授業への参加	○	○	○	○	○		40%

課題、評価のフィードバック	授業時の発表・レポートへの評価等は、その場でフィードバックする。また、課題レポートは、個別にフィードバックを行う。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	イントロダクション	生涯発達という概念について、その歴史を含めて認識する。青年期以降の発達の概要を整理する。	
	第2回	青年期の発達的变化①	青年期の心理的特徴について整理し、実践的な心理臨床活動と関連づけて考察する。	
	第3回	青年期の発達的变化②	青年期の発達課題について整理し、実践的な心理臨床活動と関連づけて考察する。	
	第4回	成人期の発達的变化①	成人期の心理的特徴について整理し、実践的な心理臨床活動と関連づけて考察する。	
	第5回	成人期の発達的变化②	成人期の発達課題について整理し、実践的な心理臨床活動と関連づけて考察する。	
	第6回	老年期の発達的变化①	老年期の心理的特徴について整理し、実践的な心理臨床活動と関連づけて考察する。	
	第7回	老年期の発達的变化②	老年期の発達課題について整理し、実践的な心理臨床活動と関連づけて考察する。	
	第8回	心理臨床と社会・文化的要因①	不登校をはじめとする学校における心理臨床的な問題について整理し社会・文化的要因と関連づけて考察する。	
	第9回	心理臨床と社会・文化的要因②	不登校をはじめとする学校における心理臨床的な問題について整理し社会・文化的要因と関連づけて考察する。	
	第10回	心理臨床と社会・文化的要因③	不登校をはじめとする学校における心理臨床的な問題について整理し社会・文化的要因と関連づけて考察する。	
	第11回	心理臨床と社会・文化的要因④	適応障害やうつ病に代表される産業領域における精神疾患について心理臨床的な視点から考察し、社会・文化的要因と関連づけて検討する。	
	第12回	心理臨床と社会・文化的要因⑤	適応障害やうつ病に代表される産業領域における精神疾患について心理臨床的な視点から考察し、社会・文化的要因と関連づけて検討する。	
	第13回	心理臨床と社会・文化的要因⑥	適応障害やうつ病に代表される産業領域における精神疾患について心理臨床的な視点から考察し、社会・文化的要因と関連づけて検討する。	
	第14回	まとめ①	授業内容をまとめ、討論する。	
	第15回	まとめ②	授業内容をまとめ、討論する。	
	試験	試験は行わない。		
授業の進め方		講義形式ではあるが、演習的な部分も含まれる。また、映像資料の視聴とそれに基づく討論も行う。		
授業外学習の指示		心理臨床に関するキーワードを、事前に調べておく。また、広義の発達に関する文献を読み、その内容を整理する。 （授業外学習時間： 毎週 60 分）		

教科書	使用しない。
参考書	授業時に紹介する。
参考URLなど	授業時に紹介する。
その他	